

## 空井戸とスッポン

空井戸とは、主要な舞台と花道が交差する場所に位置する空の四角い穴です。現代の劇場からは姿を消しましたが、江戸時代、上方（京都・大阪）地域では使われていたと言われています。空井戸は地下空間（奈落）と繋がっており、たくさんの使い道があります。俳優の出入りや早着替えに加え、空井戸は井戸や池の役割も担っています。金丸座は今日までその機能を保持している唯一の劇場です。

スッポンとは舞台に近い、花道の「落とし戸」です。長さ 0.8メートル、幅 0.6メートルです。金丸座では人力でスッポンの底を上げ下げします。スッポンという名称は歌舞伎役者が舞台の下から頭だけ出している様子がスッポンが頭を出す様子に似ていることから付けられました。スッポンは、主に亡霊や幽霊、鬼の役のために使われます。